



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：イスラエル軍がガザに侵攻(3)

7月17日夜に開始された地上戦は、11日目に突入した。27日時点で、パレスチナ側の死者は1031人、負傷者6000人以上、約16万人が国連施設などへの避難を余儀なくされている。破壊された住宅数は不明であるが、一時停戦時の報道映像を見る限り、ガザの一部地域は完全に破壊されている。イスラエル側の死者は46人（兵士43人、民間人3人）になった。

カイロで停戦案を検討していた米国のケリー国務長官は、7月25日、米国の停戦についての考え方をイスラエルとハマースに提示した。しかしイスラエル治安閣議は、同案を拒絶した。イスラエルのハアレツ紙（27日）は、イスラエルは、米国案がハマース寄りであることに衝撃を受けたと報道した。米国側は、米国案は2012年11月の停戦合意を基礎に策定した交渉の枠組であるとし、ハアレツ紙の報道は不正確であると批判している。26日、パリで開催された7カ国外相会議（英国、仏国、独国、伊国、トルコ、カタール、米国）は、ガザでの即時停戦を要請した。27日には、米国のオバマ大統領がネタニヤフ首相と電話会談を行い、即時停戦を要請したが、イスラエル側は応じていない。27日夜、安保理は即時停戦を呼びかけた。

停戦案はまだ協議段階であるが、米国及び国連が呼びかけた人道支援のための12時間の一時停戦が、7月26日午前8時（日本時間26日午後2時）から実施された。26日夜、イスラエルは、同停戦を最初に4時間、その後24時間延長することを決定したが、ハマースが停戦延長を拒否した。そのため合意された12時間の停戦が終了した26日夜から27日午前中にかけて戦闘が再開された。しかし、27日午後、今度は、ハマースが午後2時から24時間の一時停戦を発表した。イスラエルは、同停戦延長に合意していない。しかし、現地からの報道では、28日にはガザからのロケット弾攻撃はあったものの、イスラエル軍もハマースも攻撃を減少させている。28日から3日間ラマダーン明けの祭（イード・アル・フィトル）が行われるため、イスラエル軍もハマースも攻撃を控える姿勢を見せているようだ。

評価

イスラエルとハマースは、即時停戦に前向きではない。ハマースは、これまでのような自画自賛の「勝利」では、ガザ住民が納得しない状況に直面している。ハマースは、ガザ住民が勝利を実感するために、ガザ封鎖の解除や拘束されたハマース関係者の釈放を停戦合意に入れるよう要求している。しかし、ハマースが、同要求を達成するためには、ガザ住民にさらなる犠牲を強いるしかない状況である。

イスラエル軍にとっても即時停戦は難しい。兵士43人がすでに戦死している。さらにイスラエル軍は、ガザからイスラエル側に通じるトンネルを30本以上発見している。イスラエル軍としては、発見したトンネルを完全に破壊し、他のトンネルの存在を徹底的に調査しない限

り不安が残り、国民も高い代償を払った成果とは見なさないだろう。トンネルの完全破壊には数週間が必要だと言われている。

また過去2回の停戦は、戦闘状態の停止が最大の目的だった。しかし、今回の停戦協議には、今後、ガザを誰が統治し、誰がガザの統治に影響力を行使するかの問題も関係している。エジプトやパレスチナ自治政府は、ハマースのガザ統治の終了とその先を見ている。イスラエルは、ハマースの長距離ロケット弾攻撃能力の排除に加えて、ガザの武装勢力が、トンネルを使ってイスラエル領内に侵入し、イスラエル南部の住民に対するテロ攻撃を行う能力を排除するためにガザ全体の武装解除を考えているようだ。他方、ハマースは、ガザの統治から離れるとしても、組織の生き残りと言政治・軍事力の保持を図ろうとしている。

ガザの戦闘が停止されるまでには、もう少し時間がかかるかもしれない極めて憂慮される状況である。

(中島主席研究員)

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799